

Ⅲ-8-5 2型糖尿病患者のオシロメトリック血圧測定による血管指標とFMD,IMTとの比較

亀田メディカルセンター糖尿病内分泌内科

秋山 義隆, 菅長 麗依, 早川 尚雅, 重藤 誠, 榊澤 政広,
岡部 正, 松田 昌文

【目的】大血管病変評価として簡便に血圧測定時の血圧脈派を解析するオシロメトリック(O)血圧測定器が開発されAVI, APIの2指標が得られる。この2指標とIMT, FMD, 臨床的危険度(RS)の関連を検討。【方法】入院2型糖尿病患者(n=69, M/F=42/27, 年齢=51±16歳)を対象としFMD, IMT, O血圧測定を施行。IMTは左右の最大値の平均(IMTm)と年齢補正IMT(cIMTm)は年間0.02mm進展するとし50歳として計算。臨床的危険度はリスクエンジンより計算。【結果】IMTm, cIMTmは1.09±0.41, 1.11±0.46mm, FMDは6.69±3.23%, AVI, APIは22.7±8.3, 25.5±7.4。指標間の相関はAVIとcIMTmが $r=0.52$ ($p<0.05$), AVI, APIとFMDが $r=-0.08$, $r=0.13$ (n.s.)であったがRSとは有意な相関を認めた。【総括】O血圧測定はほぼ普通の血圧測定と同様に簡便に行なえ糖尿病患者においても動脈硬化を反映する可能性のある指標が算出されると期待される。